

事務事業名	四ツ葉学園保育所運営事業		所属部	子ども政策局	所属課	子ども政策課
総合計画体系	政策名	〈Ⅲ〉支えあい健やかに暮らせるまち〈保健・医療・福祉〉		所属G	教育・保育グループ	課長名 石飛 和宏
	施策名	〈25〉子育て支援の充実		担当者名	桑山 真知子	
	目的	対 象 A)子どもの保護者と産み育てたい夫婦 B)乳幼児・児童・生徒(0~18歳)	意 図 A)安心して子育てができる。B)心身ともに健やかに育つ。	電話番号	0854-40-1044 (内線) 2251	
	基本事業	〈072〉子育てと仕事の両立支援		予 算 科 目	0:1:1:5:0:2 1:0:2:0:0:2	大事業名 中事業名 私立保育所運営事業 四ツ葉学園運営事業
目的	対 象 保護者	意 図 子育てと仕事を両立できる。				

1 現状把握【DO】

(1) 事務事業の概要

① 対象(誰、何を対象にしているのか)	② 意図(対象がどのような状態になるのか)
同園に保育を必要とする児童	保護者の職業の多様化による勤務時間の変化に柔軟に対応し、子育てしやすい環境をつくる。
③ 事業内容(期間限定複数年度事業は全体像を記述)	
事業期間 <input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返(H16 年度~) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度~ 年度)	・四ツ葉学園保育所への入所申し込みがあった場合、受入れの可否を照会。可能な場合は、協議、委託契約締結などを経て入所承諾をし、保育料を徴収する。 実施責任を負う雲南市が四ツ葉学園保育所に保育の実施に要する費用を支弁する。委託児童数の増加に伴い、入所定員(90名→平成22年4月:100名)の増加。
④ 主な活動 R3年度実績(R3年度に行った主な活動) ・委託先の四ツ葉学園保育所に実施費用を支弁する。	⑤ これまでの改革・改善経緯 (この事務事業に関してこれまでどのような改革改善をしているか?) ・平成22年度定員増(90名→100名)

(2) 事務事業の指標

成果指標	単位	R元年度 (実績)	R2年度 (実績)	R3年度 (実績)	R4年度 (計画)
ア 希望児童数に対する受入率	%	100.0	99.0	99.0	100.0
イ					
ウ					
エ					

(3) 事務事業のコスト

① 事業費の内訳 (R3年度決算)		② コストの推移		単位	R元年度(決算)	R2年度(決算)	R3年度(決算)	R4年度(計画)
保育委託料: 107,585千円		財源内訳	国庫支出金	千円	48,048	52,724	50,127	53,499
【財源内訳】			県支出金	千円	22,366	23,617	22,059	23,386
国50,127千円(給付費)			地方債	千円				
県 22,059千円(給付費、1・2子軽減、3子軽減)			その他	千円	11,055	5,986	6,324	6,466
その他 6,324千円(保育料)			一般財源	千円	35,198	30,114	29,075	29,878
		事業費計		千円	116,667	112,441	107,585	113,229

2 事後評価【SEE】

① 事業実績における成果	共働き世帯の増加により、保育園への入園希望者は増えているので、事業の継続的な実施が求められている。また、延長保育、一時保育など、保育ニーズに対応するため、施設と連携を取りながら、保護者の仕事と子育ての両立支援を行っている。
② 事業実施するうえでの課題	委託入所児童について、引き続き入所希望があるので、待機児童が出ないように対応が必要となる。新規園の開園等により待機児童は徐々に落ち着いてきている。
③ 課題解決に向けた改革改善等	国基準等に基づき現状維持で実施する。 待機児童の状況により、保育必要量を検討する。 今後児童数の減少により、引き続き保育必要量の確保ができれば、保育ニーズの高まりにより定員を見直している施設については、従来の定員への見直し等を検討していく必要がある。